



三事研広報

NO. 3 H27. 11. 2 発行

三重県公立小中学校事務研究会

発行者 釜須 雅子

編集責任者 高階 圭子

日増しに冷え込みを感じるようになりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

10月15日に開催いたしました第52回三重県公立小中学校事務研究大会は、たくさんの方のご参加いただき無事終えることができました。ありがとうございました。

さて今回は8月に行われました全国公立小中学校事務研究大会の様子をご報告いたします。

全国事務研（熊本大会）

「カリキュラムマネジメントの展開と学校づくり」という大会テーマのもと、8月5日～7日までの3日間、熊本県熊本市において第47回全国公立小中学校事務研究大会が行われました。

三事研では、全国大会に参加された会員から報告書をいただいています。12月に行われます「第3回研修講座」でも3名の方に還流報告をしていただく予定ですが、今回広報にて全国大会の還流報告をさせていただきます。



1日目

<開会式>

大会実行委員長の開会宣言に先立ち、クマモンのステージがあった。地域おこしのトップセールスとして全国に勇名を馳せ、新興勢力に道を譲ることがない。その魅力にじかに接し楽しむことができた。

なぜクマモンは負けないのか。そこには、徹底した戦略と、地域としての癖や特性を出しすぎない、かつシンプルで高いデザイン性があるという。無料使用が許可されているが、クマモンロゴ使用商品のクオリティーには口も出し、信用の保証を図っている。クマモン本体のキレキレダンスの魅力は、おもてなしの心と継続のための努力が隠れている。（津支部・釜須）



<文部科学省行政説明>

行政説明自体は特に目新しいものではなかったが、教育再生実行会議第7次提言をふまえた「教育の情報化」の現状と、学校業務の適切な分業による「チーム学校」の推進についての国の方針がよく理解できた。全体研究会は基調報告で地区学校事務室（共同実施）の全国の状況について報告があったが、数年前に自分が全国事務研の理事として全国調査を行った頃に比べ、詳細なデータの分析がなされていて興味深いものだった。各県により実施状況は様々で一概には言えないが、特に加配事務職員の役割について整理をすることは三重県の共同実施の今後の展開においても必要なことであると感じた。パネルディスカッションは「カリキュラムマネジメントの展開と学校づくりーこれからの学校づくりを担う事務職員の役割ー」と題し、全事研のグランドデザイン、第8次研究中期計画の2年次にあたる今大会のテーマに基づくもので、2020年に新学習指導要領が実施されると、学校の仕事の質が変わり新たな分業体制を構築して、それをマネジメントする職員が必要といったパネラーのいくつかの指摘に大いに示唆をうけた。（桑名支部・岡田）

<全体研究会>

全事研の基調報告のあと、カリキュラムマネジメントの展開と学校づくりとしてパネルディスカッションが行われた。全事研の提唱するカリキュラムマネジメントという概念は、理解が難しい部分があるのが正直なところではあるが、そのことに対して、パネリストがそれぞれの立場から、具体の実行例を示しながら話が展開され、これからの学校づくりにおける事務職員の役割について、理解を深めることができた。（鳥羽支部・小阪）

2日目

<本部研究分科会>

カリキュラムマネジメントによる学校づくりと学校事務

～地域教育課程の展開に果たす地区学校事務室と事務職員の役割～

2日目の分科会ではカリキュラムマネジメントを地域教育課程に位置づけ、共同実施や事務職員が担う役割についての発表があり、学校・保護者・地域で教育目標を共有し、実現していくことが重要であることがわかった。地域とともに行うカリキュラムマネジメントの在り方として、学校の裁量権の拡大、自律的学校経営をしていくことで、特色ある学校づくりへとつながる。カリキュラムを創り、動かし、変えていくことが大事であり、その役割に事務職員が参画できるよう、学校だけでなく、地域にしっかり目を向け、地域で子どもを育てていかなければならないと感じた。そして、カリキュラムについてもっと知り、知った上で教員とは違った発想することが重要である。「どうやったらできるか一緒に考えましょう」と協働を促していき、「子どものために何ができるのか」という思いを大事にして少しずつ実践していこうと思った。（員弁支部・後藤）



<第1分科会>

学校経営ビジョンの実現を目指す学校事務と共同実施

～語り合おう！ 連携の要となる事務職員として～

福岡大会以後の研究中期計画に基づく研究について、教員と連携しつつ学校事務職員として教員とは異なる視点でかかわったトイレ改修の実践等について、共同実施等に係る県内アンケート調査からみる共同実施の現状について、来年度から始まる「専門性」・「協働」・「連携」をキーワードに策定された福岡県版学校事務の長期ビジョンについて提案されました。その後、「チーム学校」の実現に向けた連携・協働のあり方をテーマに4名のシンポジストによるシンポジウムが行われました。その中で、学校がどんどん厳しくなっており「チーム学校」として外から様々な人（サポート）が入ってくるので、窓口となったり、専門性を生かして教育と行政（お金）をつないだり広げたりする力が必要となるというお話が印象に残りました。午後からは「学校事務職員が「チーム学校」の一員として何ができるか？～経験年数に応じたとりくみ～」をテーマにワールドカフェ形式でのグループ討議が行われました。この討議で、全国各地域の共同実施の現状や研修制度について語り合う中で全国の規模で自分の置かれている状況を知ることができました。また、職員室で仕事するうえで心がけていることや、教職員への対応の仕方など各年代の意見を聞くことができすぐにでも実践、意識していけることを多く学ぶことができました。（員弁支部・宮原）

<第2分科会>

アクティブ・ライブー学校事務白熱教室ー

～総括事務長・事務長制度による共同実施・学校事務の確立～

第2分科会では、佐賀支部より「共同実施の現状」「管理職事務長制度」「佐賀県版グランドデザイン」の3つの柱についての提案があり、討議が展開されました。一つ目の柱「共同実施の現状」では、学校事務職員をめぐる歴史の説明もあり、この仕事が常に社会の情勢に左右され続けていることと、特に「これから『チーム学校』の一員として期待されるなかで必要なのはスピード感」「そのために、定型仕事・企画仕事・創造仕事にける時間配分を考える」という提案者の言葉が強く残りました。さらに2つ目の柱では、共同実施で組織的な仕事を積み上げた結果「責任と権限」を獲得する「手段」の一つとして『統括事務長・管理職事務長制度』の導入に至ったという説明がありました。ヨコのつながりタテという階層化が加わり組織はより立体的になることで空間（仕事の範囲）は広がり、より高みを目指すことにつながるという助言者の言葉に、今後の組織運営を考える上でのヒントを得たように思います。そして、まず確実に地に足のついた仕事を積み重ねて信頼されるベースを築こうという提案者の言葉にも共感しました。（津支部・渡邊）



<第3分科会>

長崎県の学校事務の未来像

～未来につながる長崎県の学校事務の構築に向けて～

長崎県の現状として、研修体制について事務職員向けのキャリアステージに沿った系統的な研修体系が県に無く、事務職員のキャリアアップにつながる教育理解やマネジメント等の系統立てた研修が充実していないということであった。共同実施においても平成21年度から全県下で実施されているが、新たな段階にきていると感じているようで、まさに三重県と同様に感じた。また、平成20年度に標準職務表が出されたが、事務職員のキャリアの違い・学校規模及び地域の個別事情等が考慮されていないこともあり、まだまだ十分生かされておらず、学校に応じて適応させ、定着を図り機能させていくことが課題ということであった。さらに島が多い長崎県の特殊性等、様々な現状の報告があった。

次に長事研学校事務のグランドデザイン策定についての発表があり、その後、カリキュラムマネジメントへのアプローチとして平戸市・佐世保市の取組が紹介された。平戸市では「平戸市学校予算委員会」が組織され、構成員は教育委員会・校長会代表・事務職員代表となっている。組織当初は予算要求時と配分時に意見を集約する組織であったが、その後は事務職員研修や新任・他市からの転入校長に対して「予算学習会」を開催するなど活動を広めているとのことでした。佐世保市の取組では、教育委員会と事務研究部の担当で「経理事務研究会」が組織され、当初市費についての「学校事務の手引」が作成された。その後は市費事務についての課題を協議し、解決策を図り、各学校へ文書で通知等を行って教育委員会と学校の連絡・調整役を行っているとのことであった。

長崎県のグランドデザインはまだ完成はしていないが、「どのようなつながりも大切にしながら、未来へ残していくべきグランドデザインの完成を目指したい」と発表が締めくくられた。

（鈴鹿支部・長谷川）

<第4分科会>

宮崎は今 パートV「新たな学校事務の構築」

～学校事務の5つの機能とそのステップアップ～

*第4分科会の参加者なし



<第5分科会>

風は南から 鹿事研のチャレンジ

～子どもの学びにつなげよう! グランドデザイン～

木岡教授の講演の中で「教員の負担を軽減するだけでは、今後ICTにとって変わられて意味がなくなる。目先だけの解決にしかない。」「臨時職員や18歳の人が行う事務処理を50代や再任用の人がする事務処理とさほど変わらない、これのどこに専門性があるのか。」「20年後に事務職員という職種が残っているとおもいますか。」等々、厳しい言葉が続きました。私自身、教員の負担軽減を目標に日々の業務に取り組んでいるだけに、今後の業務の進め方をもっと未来へ向けてシフトしていく必要があると痛感しました。学校徴収金の業務を行い、学年会計の処理を取り込むだけで、教員の雑務が減り、1分でも1秒でも教員が子どもと向き合える時間を確保できると思っていたのですが、それはゆくゆくPCが担っていくとのこと。

今回の研究大会では、改めて事務職員の課題や将来展望を目の当たりにすることができました。今後は政令市から順に、任用形態が県から市へ移譲されていき、三重県もその流れに沿う時期がいずれやってくるとの事。その時、「学校事務」として任用が続くように、社会から、地域から求められているような事務職員になるべく、日々の業務を考えていきたい。ただ単に教員の雑務を肩代わりしているだけでは駄目!という意識を常に持ち明日からの事務処理を間違えることなく、字を出来る限り丁寧に書き、行っていこうと思います。とはいえ、まずはその肩代わりすらできていない現状がありますので、そこから手をつけていき将来を考えられる段階にするのが目下の目標であります。(鈴鹿支部・陸)



<第6分科会>

教育行政改革における組織機能とカリキュラムの展開

～理想の学校での事務部の役割～

児童生徒の学力や家庭状況などの個人情報、保護者のニーズ、地域のニーズといった情報を収集、分析、提供する機能・機関（IR室・IR機能）を備えた学校を理想の学校と設定し、その機関の中での事務職員の役割を考察するという理論研究を行う分科会でした。現在の学校は学校教育目標設定後、実行するまでの間に企画・調整を行う機関がないことを問題提起とし、企画・調整を行う機関（新企画委員会）を創設する必要があると提案がなされました。新企画委員会とは学習指導要領や学校教育目標、保護者・地域のニーズなどの地域情報に基づいて編成したカリキュラムの編成と学校教育目標の設定、それらの企画・調整をする機関であると理解しました。IR室では前述した情報に関する機能を果たすことや、教員からの明確な教育効果の説明に基づく予算執行を行うなど、マネジメント面で新企画委員会を支える役割を担う機関であると理解しました。IR室で事務職員は中心的役割を果たすことができる存在になれるという結論でした。

この2つの機関を運用していくためには、全教職員がカリキュラムとマネジメントに理解を示し、話し合いの積み重ねが必要であると考えました。学校の裁量を活用し、学校教育をより良いものとするために新たな機関の創設し、新たな事務職員の領域を創造する非常に興味深い研究発表でした。(桑名支部・長谷川)



<記念講演>

演題「芸術が人生に教えてくれること～いのちと平和を大切にする心～」

講師 葉 祥明 氏（絵本作家・画家・詩人）



古代ギリシャ哲学、最新科学技術と心の関係、学校教育システムと受験・不登校問題など多岐にわたるものでした。なかでも印象深かったのは、物事を俯瞰して観ること。ある問題について同じレベルで考えても何も解決しない。1つ上のレベルで考えると答えがでることがある、というアインシュタインの言葉を引用されていたことでした。私自身ミドルリーダー世代として、課題解決の1手法を示唆してもらえたと同時に高いレベルに到達するために研鑽を積みなければならいと痛感しました。（松阪支部・中村）

第3回 研修講座のご案内

詳しい内容については、後日文書にてお知らせします。

皆様のご参加をお待ちしています！

1. 日 程 平成27年12月10日(木) 受付開始 13:00～

2. 場 所 三重県男女共同参画センター

津市一身田上津部田1234 TEL 059-233-1111

3. 内 容 ・講演 題名「コミュニケーションと学校事務職員」(仮)
オフィスプレスユー 島田祥子 さん

・全国大会熊本大会の参加者より還流報告

・第6期研修計画のまとめと第7期研修計画について



広報担当の高階です。高齢化がすすむ私の職場。すんなり言葉が出てきません。

あれ・これ・それは当たり前(笑)

「この前な、車のアしかえたん!」「アって??」「あのーほうほう、これくらいのー、大きさのー。」

「バッテリー!」「正解!」毎日ジェスチャーゲームの気分です。

